

平成30年度奈良県環境審議会水質部会（第1回）議事録

日時 平成30年1月22日（火）

10:30～11:30

場所 奈良県文化会館 第1会議室

1. 出席委員

（会長）藤井委員

惣田委員、中野委員、今須委員代理

2. 議 事

（1）平成31年度公共用水域及び地下水の水質測定計画について（諮問）

（2）その他

3. 質疑概要

議題（1）平成31年度公共用水域及び地下水の水質測定計画について

（中野委員）

年1回の測定では、季節等の影響はないのでしょうか。

（事務局）

年1回の測定というのは有害物質で、季節変動がないと考えて行っています。生活環境項目等の汚れの指標については、最低年4回の季節変動をみております。農薬等は使用状況を考慮し、気温の高い時期に測定するようにしています。

（中野委員）

同じ地点では、だいたい同じ時期に行っているのでしょうか。

（事務局）

毎年計画を立て、検査機関と調整するとき、前年を踏襲しています。

（中野委員）

この頃の話題としてマイクロプラスチックの話があると思います。奈良の河川では、水質監視や状況把握はしているのでしょうか。

(事務局)

今話題のマイクロプラスチックは、今のところよくわかっていないということ、また、国でこれから調査をされるので、その辺を注視しながら、県として何ができるのかを見極めていきたいと思います。SS（浮遊物質）には含まれると思います。SSは土などを含む総合的なものですが、もしマイクロプラスチックがあれば、SSには数値としてあらわれます。ただ、細かく見ていかないと、マイクロプラスチックの値はわかりません。国でもかなり焦点を当ててやろうとしていますので、県でも何ができるのかを考えたいと思います。むしろ、先生方で何かご存じであれば情報のご提供をお願いします。

(藤井部会長)

会議でも研究段階で、マイクロプラスチック調査をされていて、どのような動きか、どのような状態かを調べているところだと思います。マイクロプラスチックを魚が食べて、魚を人間が食べて、どういう健康被害になるか、かなり今注目されているので、さらにこれから基準などが出てくるかもしれませんね。

(事務局)

知見のほうは集まりつつありますが、まだしばらく時間はかかると思います。国が少しずつ知らしめてくれることだろうと思います。

(景観・環境総合センター)

センターでもマイクロプラスチックを調査できないかと情報を集めています。基本的にマイクロプラスチックというのは海側でできます。排出された時点ではかなり大きいプラスチックが川に出て、海に流れると波の影響で、護岸近くで削られて、どんどん小さくなっていき、溜まっていったものを調べているというのが今の状態です。川でもこれを調べれば、プラスチックは検出されるのではないかなと思いますが、今は海側の調査をしている状態です。

(中野委員)

奈良から出て行く水で、マイクロプラスチックの汚染源となるものが減らせるようになればというのが望むところです。

(事務局)

大きな流れでいうとゴミの問題なので、ゴミを出さない、リデュースの考え方からもう一度スタートして、それでもだめなら、リユース、リサイクルの考えで全体的にプラスチックゴミを考えていかなければならないと思います。

(惣田委員)

資料2、地下水の調査結果総括表のところで、1,1,1-トリクロロエタンが検出されていますが、他は天然起源のものばかりだと思うのですが、こういう有機塩素化合物はどのような場所で検出しているのか、何か履歴があるような場所なのかを教えてください。底質の調査で、芳野川はもともと水銀鉱山があった近くで、年4回測定されているのですが、過去から水銀が出ているのか、また、どれくらい出ているのでしょうか。

(事務局)

1,1,1-トリクロロエタンの検出地点がどこかというデータについては、本日資料を持ってきていないので、改めて回答させていただきます。芳野川の状況につきましても、過去からの履歴、経年の傾向を調べて、報告させていただきます。

(惣田委員)

芳野川の地点はどのあたりでしょうか。

(事務局)

水質測定地点一覧の80、81が芳野川の岩崎橋と木綿橋で、そのあいだにあるのですが、底質の測定地点として場所を記載していないので、改めて回答させていただきます。

(藤井部会長)

地下水の継続監視調査を行っている4箇所は、ずっと基準値を超えた値が検出されているのでしょうか。

(事務局)

継続して検出している所では、濃度につきましても、ほぼ横ばいで続いています。

(藤井部会長)

対策として、周辺の井戸についても調査をしていくということですが、その周辺もやはり高いのでしょうか。

(事務局)

場所にもよりますが、1回目に出たときに周辺に汚染範囲がどれだけあるか調査し、そのときに周辺もあわせて飲用指導をさせていただいて、高い所もあるし、そこだけの場合もあります。

(中野委員)

高い所というのは、傾向があるのでしょうか。

(事務局)

硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素というのは、肥料由来やし尿由来だと思います。重金属類も、濃度としては基準の1. 何倍というところなので、近くにそういうものを排出する事業者や履歴がないところであれば、恐らく地質由来だと思います。

(藤井部会長)

測定時期に関して、地下水の結果で、28年度は硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素は28 mg/lだったのが29年度は13 mg/lに、20 mg/lが14 mg/lに下がったりしていて、地下水は滞留時間が長いので、すぐに出てくるかどうかは分かりませんが、測る時期によっても変わってしまう感じもします。すぐ出てくるのであれば農薬や肥料を使っている田んぼをやっている時期に高くでたり、その他から混入すると高く出る可能性もありますね。

(中野委員)

そういうのをされる時期や天候によってもあるかもしれないですね。出たところの地点がわかっていると考えるヒントになるかもしれないです。

(事務局)

検出された地点についてはもう少しわかりやすいように示させていただきます。

(中野委員)

先ほど惣田先生からご質問のあったことはわからなくても、今回の計画の変更点については、特に影響なく判断できるのでしょうか。

(事務局)

1,1,1-トリクロロエタンが検出されたということについては、環境基準よりかなり低い値で、今回の測定計画に影響はなく、結果をお示しするだけになります。

(惣田先生)

数値が低いので、場所によっては分析誤差の可能性もあります。産業由来の履歴のあるところかどうかを知りたいと思ひまして。

(事務局)

過去のデータを持ってきていないので、また調べて回答させていただきます。

例えば PRTR の中で企業が使っている物質の中で、1,1,1-トリクロロエタンを使っている企業は記憶にありませんが、この数字でいうと少量使っているところはわからないので、履歴については調べて回答します。

(藤井部会長)

地点については決まったルールでされてると思うので、地点は国、奈良県、奈良市、水資源機構を合わせて決めているということですね。回数を増やせば、いつも話題に費用、予算、人件費といったことが出てくるので、出てこないところは最低限ローリング調査や回数を減らしたりして調査していると思います。

(中野委員)

1,1,1-トリクロロエタンが検出された地点は、次の継続監視調査に入ってくるのでしょうか。

(事務局)

この地点は検出されてはいますが、環境基準を超過していないので、継続監視調査には入りません。

(藤井部会長)

他に意見質問等がないようでしたら、事務局のとりまとめていただいた計画で決定してよろしいでしょうか。

委員了承。

(藤井部会長)

先ほどの質問事項については、確認して各委員にご報告していただくということにしたいと思います。それでは、この計画を部会として了承する旨を環境審議会の委員の皆様へ報告することといたします。

議事(2) その他

(今須委員代理)

奈良県の水域の水質も良くなってきたと認識していますが、類型指定の達成期間が、既に達成しているのに「ハ」のままになっているところがあります。機会があれば今後見直された方がいいと思っております。

(藤井部会長)

地点の見直しはどちらでされるのでしょうか。

(事務局)

それぞれの管理主体でされます。

(藤井部会長)

以上をもちまして議事を終了させていただきます。議事進行にご協力いただきましてありがとうございました。